

アスリートの社会的勢力の構造と被指導者への影響 -アスリートによる指導イベントを対象として-

The structure of social power of athlete & the impacts on the affected person

スポーツビジネス研究領域

5013A052-8 長谷川 興史

研究指導教員：間野 義之 教授

1. 緒言

近年、我が国において、現役アスリートや引退した元アスリートの能力を、地域スポーツの現場に還元しようとする政策が推進され、様々な事業が展開されている。また、東日本大震災の復興支援事業として、アスリートが被災地の子どもたちにスポーツ教室を行う事例も多く見受けられる。しかしながら、アスリートの影響について行われてきた先行研究は、マーケティング的な視点からは議論されている(e.g., Stevens ら, 2003; 備前・原田, 2010; 備前, 2012)一方、アスリートによる直接指導による効果やその影響に関する学術研究の蓄積は乏しい現状にある。散見される、アスリートによる直接指導の影響に関する学術研究としては、Nagatsuka ら(2014)が、被災地におけるアスリートによる継続的なスポーツ教室の効果として、参加者の競技力向上や動機づけとなるというポジティブな結果を明らかにしている。以上のような社会的背景及び学術的背景より、アスリートによる直接指導の影響を明らかにすることは重要であると考えられる。

指導者の影響力について、スポーツ場面を対象とした研究では、コーチの社会的勢力という概念を用いて明らかにしたものがある(森ら, 1990)。しかしながら、スポーツ場面を対象とした中でも、部活動における指導者のみに焦点が当てられ、指導を行うアスリートに適応させるためには、概念構造の修正が必要であると考えられる。

よって、本研究では、アスリートによる指導イベントを対象に、アスリートの社会的勢力の構造とその影響について明らかにすることを目的とした。

2. 方法

本研究における調査対象者は、現役アスリート及び引退後のアスリートが指導するイベントにおける参加中学生とした。調査は2回実施した。調査方法は、2回のイベント閉会式終了後に閉会式参加者全員に対し、質問紙を配布し、その場で記入させ回収した。有効回答数は139部(有効回答

率81.8%)であった。質問項目は以下の通りである。

- ①性別・学校・学年・参加競技
- ②コーチの社会的勢力測定尺度(森ら, 1990)
- ③指導満足度
- ④競技継続意図(霜島・木村, 2013)

分析方法は以下の通りである。

【分析1】

アスリートによる指導イベントにおける社会的勢力の構造を明らかにするため、森ら(1990)によって作成された、コーチの社会的勢力測定尺度の再検討を行った。再検討の方法として、Item-Total 相関分析(基準値 $\geq .40$)、主因子法プロマックス回転による探索的因子分析(因子負荷量 $\geq .40$)、内的整合性の確認(クロンバックの α 係数)、構成概念妥当性の検証、確認的因子分析による収束的妥当性(AVE $\geq .50$)、弁別的妥当性(因子間相関の平方と AVE の比較)及びモデル適合度の確認を行った。

【分析2】

分析1によって修正された社会的勢力測定尺度の各因子について、指導満足度及び競技継続意図との関連を検討するため、以下の仮説に従い、仮説モデルを設定し、共分散構造分析によるパス解析を行った。

<仮説1>修正版社会的勢力の各勢力は、指導満足度に対して有意な関連を示す

<仮説2>指導満足度は、競技継続意図に対して有意な関連を示す

なお、統計的有意水準は全て5%以下に設定し、統計解析にはIBM SPSS Statistics ver.22 及び IBM SPSS Amos ver.22 を使用した。

3. 結果

社会的勢力測定尺度の再検討の結果、「魅力勢力」「指導態度勢力」「正当勢力」「競技専門性勢力」の4因子22項目から構成される測定尺度が作成された(表1)。モデル

修正の結果、作成された尺度のモデル適合度は、 $\chi^2/df=1.76$, GFI=.82, AGFI=.77, CFI=.91, RMSEA=.074 であった。

表1. 社会的勢力測定尺度の再検討結果

項目	既存因子	因子負荷量			
		1	2	3	4
魅力勢力 (α =.91; AVE=.52)					
(19)講師がおもしろい人だから	親近・受容	.791	.049	-.041	-.201
(18)講師はよいお手本だから	専門・参照	.784	-.027	-.226	.209
(25)人間的に尊敬しているから	専門・参照	.735	.027	.029	.034
(29)講師が有名だから	専門・参照	.682	-.175	-.042	.191
(6)講師のようになりたいから	専門・参照	.594	.046	.030	.084
(17)技術的に尊敬しているから	専門・参照	.593	.064	.014	.239
(11)講師を信頼しているから	専門・参照	.572	.051	.119	.109
(33)自分より経験が豊富だから	専門・参照	.434	.248	-.215	.189
指導態度勢力 (α =.89; AVE=.55)					
(40)熱意を持って接してくれるから	指導意欲	-.125	.906	-.093	.097
(42)意欲的に指導してくれるから	利益	-.117	.784	-.080	.336
(36)私たちのことを本当に考えてくれるから	指導意欲	.038	.754	.047	-.121
(37)一緒に練習してくれるから	指導意欲	.172	.720	.002	-.126
(39)自分の悪い所を直してもらえから	利益	.020	.662	.118	-.117
(38)まじめな人だから	指導意欲	.182	.628	.072	-.146
(41)講師は指導者だから	正当	-.047	.493	.128	.234
正当勢力 (α =.83; AVE=.62)					
(9)講師の言うことは守らねばならないから	正当	.026	-.092	.765	.130
(4)講師の言うことを聞くのは当然だから	正当	-.025	.046	.715	.154
(27)講師に従うのはあたりまえだから	正当	-.020	-.035	.702	.066
競技専門性勢力 (α =.79; AVE=.56)					
(10)講師がよい成績や記録を持っているから	専門・参照	-.043	-.041	.133	.735
(5)自分より技術が上手だから	専門・参照	-.058	-.027	.123	.680
(8)講師がこの競技をよく知っているから	専門・参照	.132	-.010	.068	.628
因子間相関の平方とAVE					
		魅力勢力	0.545a		
		指導態度勢力	0.462	0.551b	
		正当勢力	0.341	0.227	0.623c
		競技専門性勢力	0.545	0.328	0.462
					0.560d
a. 魅力勢力のAVE. b. 指導態度勢力のAVE. c. 正当勢力のAVE. d. 競技専門性勢力のAVE					

a. 魅力勢力のAVE, b. 指導態度勢力のAVE, c. 正当勢力のAVE, d. 競技専門性勢力のAVE

また、パス解析の結果、「魅力勢力」及び「競技専門性勢力」から「指導満足度」に対して有意なパスを示し、「指導満足度」から「競技継続意図」へ有意なパスを示した(図1)。

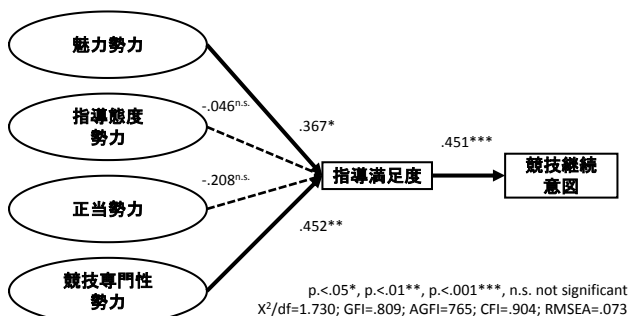


図1. パス解析結果

5. 考察

【分析1】

本研究の結果から、アスリートの持つパーソナルな魅力を表す「魅力勢力」、アスリートの指導者としての態度を表す「指導態度勢力」、従うことに対する内在化された規範を表す「正当勢力」、及びアスリートの競技に対する専門性を表す「競技専門性勢力」が、アスリートによる指導の際に、社会的勢力として認識されていることが示唆された。「競技専門性勢力」が単独因子として抽出された理由として、指導者がアスリートであったことの特異性と解釈でき、アスリートの競技に対する高度な専門性に対して、被指導者は影響を受ける

ことを示唆している。また、罰勢力の項目が、再検討の結果、全て削除されたことについて、一過性イベントであったことから、ネガティブな罰に関する感情が想起されにくい状況であった可能性が考えられる(熊原ら, 2014)。

【分析2】

森ら(1990)が作成した尺度における、専門・参照勢力及び親近・受容勢力から得られえた勢力である「魅力勢力」及び、専門・参照勢力から得られた「競技専門性勢力」が有意な影響を与えていた点では、先行研究(森ら, 1990)を支持する結果であった。コーチの指導意欲勢力と満足度の間に関連を示さなかった点については、伊藤(1994)の、中学生はコーチの指導意欲勢力から影響を受けていないという結果を支持した。またこれまでは、社会的勢力と競技継続意図との関連について言及されてこなかったが、本研究において、指導者が与える魅力が、被指導者に被指導競技を継続する意図を高めるとい、新たな知見を示唆する結果を得た。本結果は、運動・スポーツにおける内発的動機づけの観点から、指導者の持つ魅力が憧れとなり、競技継続意図との間に有意な関連を示した可能性が考えられ、今後は、同一視や動機づけに関する研究との関連を明らかにする研究が望まれる。

6. 結論

①アスリートによる指導イベントのために修正された社会的勢力測定尺度は、「魅力勢力」、「指導態度勢力」、「正当勢力」、及び「競技専門性勢力」の4因子22項目の構造となった。

②アスリートによる指導イベントの「指導満足度」に有意な影響を与えるアスリートの社会的勢力は、「魅力勢力」と「競技専門性勢力」であった。

③アスリートによる指導イベントの「指導満足度」は、「競技継続意図」に対して有意な影響を与えていた。

7. 研究の限界

2つのイベントを同一サンプルとして捉えざるを得なかった点において、サンプリングの信頼性について課題を残す結果となった。今後は、同一のアスリートによる被指導者のサンプルを多く収集し、尺度の洗練及び、アスリートの特性を調整変数とした多母集団による分析が望まれる。また、アスリートのブランドイメージや運動・スポーツ場面における同一視といった変数を取り入れた研究も望まれる。